

常に初陣

平成 25 年 2 月 9 日発行 特別号
Shimba kazuya to Ayumukai NEWS

しんば賀津也

と歩む会
NEWS



アベノミクスは
本物か!?



参議院議員

しんば賀津也

www.k-shimba.com

第 183 国会が召集され、新たな枠組みでの国会論戦がスタートした。再び野党となって迎えた国会だが、政府与党の揚げ足取りに終始する“反対のための反対”をするのではなく、「責任ある野党」として堂々と政策論戦を挑んでいきたい。不毛な政局ゲームを展開する時間的余裕はこの国にはないのだ。

1 月 31 日、政府は総額 13.1 兆円の今年度補正予算を国会に提出した。注視すべきはその内容だ。補正総額 13.1 兆円の内、4.7 兆円は公共事業関連費だが、数多くの基金への不明瞭な支出や、精査無き事業の上積みなどが目立つ。加えてその財源の約 6 割に当たる 7.8 兆円分は新たな新規国債(借金)でまかなうとした。結果として今年度の国債発行の総額は 52 兆円にふくれ上がり、民主党時代の「44 兆円枠」の財政規律を大幅に逸脱する大盤振る舞いの“ご祝儀予算”となっている。

アベノミクスがカンフル剤になり株式市場は近年稀にみる大相場になっており、円安の動きも堅調に推移している。景気が上向くのは大歓迎であり、国会は日本経済の再建のために党派を超えてこの流れを推進しなくてはならない。無論、野党が景気回復に冷や水を浴びせることがあってはならない。しかし、日銀への政治介入とも評される 2%のインフレターゲット(物価上昇目標)を軸としたアベノミクスのリスクや弊害の可能性には、常に警笛を鳴らさなくてはならない。生活者が望むのは名目ではなく実質経済の回復と成長なのだ。

インフレ・円安・株高が実現しても、納税者である国民の生活が今より苦しくなっては本末転倒だ。物価が高くなっても給料や売り上げ、年金が同様に上向かなければ、庶民の可処分所得(実際の手取り金額)が下がってしまう。事実、2002 年から 2007 年(小泉内閣～第一次安倍内閣)の間、日本はいざなぎ景気を超える空前の経済成長であったというが、庶民はその“好景気”を実感することはほとんどなかった。金融経済、投機マネー、村上ファンド、ホリエモン、六本木ヒルズ…などという言葉が躍る一方で、契約社員、派遣切り、内定取り消し、ガソリン高騰…などの過酷な現実が庶民を直撃した。失業者や若者の就職難、不安定な雇用形態や自殺者が急増したのもこの時期である。

安倍内閣は「企業が元気になれば労働者の賃金が増え、消費や税収が増える」という。しかし、当時の実態は会社の経営者や役員ばかりが膨大な報酬を得て、会社の内部留保が増えるばかりで、“ハゲタカ”や“シロアリ”がそれに群がった。勝ち組と負け組の格差がかつてないほど広がったのは記憶に新しい。真面目に汗して働く者が馬鹿を見るような社会を絶対に許してはならないのだ。

政府の財政規律に対する意識の希薄さも見逃してはならない。国の借金が1000兆円を超えていても、更に「国土強靱化」の名のもとに200兆円の国債を追加発行するという。必要な公共事業は大事だ。しかし、2%のインフレターゲットは、金利も同様に引き上げる。1000兆円超の借金の利子だけで20兆円強の規模で膨れあげることも忘れてはなるまい。確かに税収の増加は見込まれるであろう。しかし、1990年度の空前のバブル経済の時代でも、税収はせいぜい60兆円程度であった。「財政再建」の四文字は片時も忘れてはならないのだ。政府与党が「7月の参議院選挙に勝つためには…」などという思惑で納税者を誤魔化そうとする選挙対策の政策をしているなら、その代償はそのまま国民に跳ね返ってくる。しかも、そのツケを背負わされるのは若者や子どもたちの世代なのだ。

所信表明演説で安倍総理のやる気が前面に出ていたことは認める。しかし、残念だったのは所信の中身が余りにも疎にして空であったことだ。社会保障と税の一体改革や財政再建、エネルギー政策やTPP、防災減災対策といった重要課題にはまったく言及がなかった。自民党は15か月予算を標榜し、補正と同時に本予算の編成に入っている。民主党政権の政策を“バラマキ”と喧伝した自民党だが、安倍内閣の来年度予算編成を見て驚愕した。「バラマキ三兄弟」とまで批難していた民主党の高校無償化、子ども手当、農業者戸別所得補償制度は、なんとすべてそのまま継続！そればかりか、農業者戸別所得補償制度は「経営所得安定対策」と名前だけを変えて対象品目を野菜や果樹にも拡大する方針というのだ!!

民主党政権が実現させた地方への一括交付金制度や自動車関連諸税の税制改正については次回に譲るが、当時の野党自民党と共にバラマキや愚策の代名詞とばかりに民主党の政策をこき下ろしたマスコミは、この現実をどのように報道するのだろうか？

しんば賀津也プロフィール

参議院：外交防衛委員会委員 倫理選挙特別委員会委員、憲法審査会委員

党 職：民主党静岡県総支部連合会会長、民主党お茶振興議員連盟会長、東日本大震災・災害廃棄物広域処理推進議員連盟（がれき処理推進議連）副会長等

その他：静岡県馬術連盟会長、中央大学大学院公共政策研究科客員教授、富士山世界文化遺産両県県民会議顧問、2020オリンピック・パラリンピック日本招致議員連盟副会長等

過去の主な役職：防衛副大臣（鳩山内閣、菅内閣）、外務副大臣（第三次野田改造内閣）、外交防衛委員長、議院運営委員会筆頭理事、外交防衛委員会筆頭理事、国会対策委員長代理、予算委員会理事等

発行・お問い合わせ先：しんば賀津也事務所 TEL 0537-62-3355

Shimba Kazuya to Ayumukai NEWS